

## 子どもの本だな 131

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

## かさざるぼう

シビル・ウエッタシンハ 作・絵  
いのくま ようこ 訳 (徳間書店)

むかし、スリランカのある村に、キラ・ママというおじさんがいました。ある日、町で初めて傘を見たおじさんは、村の人にも見せようと1本買って帰りました。ところが、お店でコーヒーを飲む間に、傘はなくなっていました。おじさんは何度も傘を買いますが、お店に立ち寄るたびになくなります。傘泥棒を捕まえようと、おじさんは傘に小さな紙きれを詰め込みました。月明かりのもと、道に落ちた紙切れをたどっていくと、森の中の大きな木に傘がきれいに並んでぶら下がっていました。おじさんは、1本を泥棒に残してやり、持ち帰った傘で店を開きました。村人がさす傘で村は花が咲いたようになりました。

森に残した傘にこざるが座っているのを見て、泥棒の正体を知ったおじさんの驚きや喜びが伝わる愉快な絵本です。色鮮やかな絵からはスリランカの小さな村の雰囲気伝わります。読んでもらえば4歳から楽しめます。

(竹内)

## 図書館の本棚 459

## 紫禁城の至宝を救え

日中戦争惨禍から美術品を守った学芸員たち

アダム・ブルックス 著 須川 綾子 訳 (河出書房新社)

本書の中心人物である馬衡は、碑文を研究する金石学者であり物静かな人物だった。彼は政治に関心はなく、研究者として一生を終えるつもりであった。しかし、その人生は様々な力に翻弄されることになる。

北京にある紫禁城は、15世紀に建国された明の時代から王朝の皇城であり、宮廷コレクションは書物や陶磁器、絵画など数百点におよぶ。1912年辛亥革命によって中国が共和主義国家中華民国になると同時に、紫禁城は政府の管轄におかれ、馬衡たち学芸員によってすべての至宝の目録が作られた。そして、故宮博物院として生まれ変わった。日本の侵略が北京近くまで迫ってきたことで、博物院の理事会は至宝を疎開させる決断を下す。混乱の中、院長に就任した馬衡にその責任がのしかかる。疎開させる美術品の選定、決して壊れることのない梱包、安全でスムーズな輸送方法：問題は山積みであった。至宝は、北京↓南京↓上海↓また南京へと流浪の旅を続ける。苦勞の末、南京で安全な保管場所を確保したのも束の間、またも日本軍が迫ってきた。様々な事情から至宝はまとめて輸送することができず、膨大な費用と人員、時間をかけて、北路、中路、南路の別れたルートをとることに。最終的には南京からも北京からも遠く離れた四川省の3カ所まで日中戦争が終わるまで保管されることになった。しかし、1945年に終戦を迎えても至宝は故宮に帰ることはなく、中国共産党と国民党の内戦の末、国民党の亡命者とともに台湾に渡った。最終決断を下したのは馬衡であった。馬衡は数名の学芸員たちと至宝を台湾に亡命させると、残った至宝と職員を守るために北京にとどまり、厳しい監視のもと死ぬまで故宮博物院を守り続けた。

馬衡たちが命を賭けて守った紫禁城の至宝は、今、北京と台北に分かれて保存されている。国こそ分断してしまっただが、至宝を私たちが目にするのできるの、命を懸けて守った学芸員たちのおかげである。彼らは自らの文化に対する愛着と誇りを持っていた。その義務感と忠義心に胸が熱くなる。

(八木)

お知らせ

### < クリスマスカードを作ろう! >

消しゴムはんこをおして、「しおり」や「カード」を作ろう!

▶日時：①12月7日(土) 14:30~15:30

▶対象：4歳以上の子ども

②12月8日(日) 10:30~11:30

▶場所：太子町立図書館 読書会室

※申込は不要です。



11月の開館日							12月の開館日						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	<del>3</del>	4	5	6	7
3	4	<del>5</del>	<del>6</del>	7	8	9	8	9	<del>10</del>	11	12	13	14
10	11	<del>12</del>	13	14	15	16	15	16	<del>17</del>	18	19	20	21
17	18	<del>19</del>	20	21	22	23	22	23	<del>24</del>	25	26	27	28
24	<del>25</del>	<del>26</del>	27	28	<del>29</del>	30	<del>29</del>	<del>30</del>	<del>31</del>				

▶ ×印は休館日

- ・祝日の振替休館  
11/6、11/25
- ・館内整理日 11/29
- ・年末年始休館  
12/29~1/3

※閉館時は返却ポストをご利用ください。  
ただし、年末年始休館中は利用できません。

▶ 開館時間：

10:00~18:00

※金曜日のみ

10:00~20:00

11月	12月	11・12月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
7日	5日			<b>福地(三反長)</b> 地域内 14:30~ 14:50	<b>米田</b> 公会堂 15:00~ 15:20	<b>竹広南</b> 公民館 15:30~ 15:50
14日	12日			<b>原池団地</b> 公民館 15:00~ 15:20	<b>山田</b> 掲示板前 15:30~ 15:50	<b>原</b> 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
21日	19日	<b>広坂</b> 公民館 10:30~ 10:50	<b>上太田</b> 公民館 11:00~ 11:20	<b>塚森</b> 地域内 15:00~ 15:20	<b>太子 ニュータウン</b> 公民館 15:30~ 15:50	<b>吉福</b> 公民館 16:00~ 16:20



### 地下水

先月は龍田小学校を皮切りに、町内の各小学校から2年生が図書館にやってきた。館長から図書館の使い方の説明を受け質疑応答。「図書館が一番ぶあつい本はどれですか?」など思いがけない質問が飛び出した。その後、おはなしの部屋に移動した。初めて入る子は「えー、こんな部屋あったんや」「うわあー、暗い」とにぎやかだ。おはなしの聞き方を伝え、ろうそくに火を灯すと静かになった。今日は楽しいおはなしです、と「エバミナンドス」を語りはじめると、次に何が起ころかと予測して、子どもたちは表情をほころばせている。そして最後に、お願い事をして、ろうそくを消した。それから2、3日後、何人が利用者カードを作りに来た。本を借りたいと家の人に頼んだそうだ。

『ぐりとぐら』『いやいやえん』の作者 中川李枝子氏の言葉。「児童文学のテーマは成長だと、私は思う。質の良い本は、読者も成長させます。主人公になりきって、ともに成長していく自信と安心、希望を、与えてくれるのではないかしら」(中川李枝子 本と子どもが教えてくれたこと 平凡社)

私も心から中川さんの言葉に賛成だ。1人でも多くの子どもが、おはなしや本に出会って、成長の糧を得てくれるようにと願いながら、日々カウンターに立っている。  
(西村)